平成 29 年度

仙台市学校図書館運営モデル校
取組事例集

平成 30 年 10 月

仙台市教育委員会

はじめに

このリーフレットは，仙台市子ども読書活動推進計画（第三次）に基づき平成 29 年度に実施した「学校図書館運営モデル校事業」における学校図書館運営モデル校の取組事例をまとめたものです。

モデル校が実施した学校図書館運営に関する取組内容や取組の結果等を紹介していますので，各校における学校図書館運営の参考としていただき，子どもの読書環境の充実につなげていただきたいと存じます。

また，仙台市子ども読書活動推進計画（第三次）についても抜粋して紹介していますので，取組を進めるにあたって，本市の子ども読書に関する目標や考えを今一度ご確認いただければ幸いです。

◆◆◆◆◆◆◆ 目次 ◆◆◆◆◆◆◆

１　仙台市子ども読書活動推進計画（第三次）について

（１）計画の策定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１

（２）計画の目的と基本的方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１

（３）成果指標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２

（４）重点的な取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２

２　仙台市学校図書館運営モデル校事業

（１）計画における位置づけ・事業概要・・・・・・・・・・・・・・・・３

（２）平成 29 年度モデル校の取組事例紹介

・高砂小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４

・桜丘小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６

・人来田小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10

・将監小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12

・住吉台小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16

・七郷中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18

・田子中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20

（３）平成 29 年度モデル校事業の総括・今後 ・・・・・・・・・・・・22

1　仙台市子ども読書活動推進計画（第三次）について

（1）計画の策定

平成 13 年に制定された「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づき政府が策定している「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」を踏まえ，仙台市においても，平成 16 年から仙台市子ども読書活動推進計画の第一次計画，平成 24 年から第二次計画を策定して子どもの読書活動推進に取り組んできました。

現在は，平成 29 年１月に，第二次計画期間で見えた課題などを踏まえ新たに策定した**「仙台市子ども読書活動推進計画（第三次）」**（以下「第三次計画」）に基づき，**平成 29 年度から平成 33 年度まで**の５年間の計画期間のなかで様々な取組を推進しています。

（2）計画の目的と基本的方針

計画の目的

子どもが自ら読書に楽しみ，人生をより深くより豊かに生きる力を身に付けることができる読書環境をつくる

第三次計画では，子どもが読書に親しむだけでなく，自ら進んで楽しく読書することを通して，様々な知識や経験や考え方に触れ，身近なことから国際的・専門的なことまで幅広く多くのことを学び，人生をより深くより豊かに生きることができる力を身に付けられるよう，多様な読書活動ができる環境づくりを目指しています。

また，この目的を達成するために次の４つの基本的方針を掲げています。

基本的方針

（1）子どもが読書に親しむ機会の提供

子どもが読書の楽しさ，大切さを知ることができるよう，家庭，地域，学校等において子どもが読書に親しむ機会を幅広く提供していきます。また，子どもの発達段階に応じた読書支援を行い，子どもが読書を継続的に楽しむことのできる力を育てます。

（2）子どもの読書環境の整備・充実

子どもが自ら足を運び，本を手に取りやすい読書環境の整備・充実を図るとともに，子どもの読書活動を支える人材の育成や支援に取り組みます。

（3）子どもの読書に関する理解の促進

子どもの身近にいる大人に対し，読書の意義や大切さについて啓発活動を行うとともに，子どもだけでなく大人も読書に親しめる環境づくりを通じて，社会全体で子どもの読書活動を推進します。

（4）家庭，地域，学校，図書館，ボランティアなどの連携・協力

子どもの読書活動を取り巻く様々な主体が相互に協力し，連携を図りながら計画を推進します。

（3）成果指標

計画の推進状況把握のため，目的達成と関連性のある指標について成果指標を設定しています。

しかし，読書活動の数量的な広がりだけを求めるのではなく，子どもたちの感性を磨き，表現力を高め，創造力を育むことのできるような質の高い読書活動を広めていくことも必要です。

成　果　指　標		第二次実績（平成28年度）	第三次目標（平成33年度）
家や図書館でふだん（月～金）１日に30分以上読書する児童・生徒の割合（教科書，参考書，漫画，雑誌を除く。）	小６	39.3%	45.0%
	中３	30.8%	35.0%
昼休みや放課後，学校が休みの日に，学校図書館や地域の図書館へ月１回以上行く児童生徒の割合	小６	39.4%	45.0%
	中３	18.5%	25.0%
市立図書館児童書蔵書冊数（15歳以下１人あたりの平均蔵書冊数）		5.2冊	5.5冊
市立図書館児童書貸出冊数（15歳以下１人あたり年間平均貸出冊数）		9.0冊	10.5冊
市立小・中学校の学校図書館貸出冊数（１人あたりの年間平均貸出冊数）	小	39.8冊	37冊（※１）
	中	6.3冊	9冊
市立図書館おはなし会参加人数		12,249名	12,000名
１か月に１冊も本を読まない子どもの数（不読率）	小	―	3%（※２）
	中	―	12%（※２）

※１　計画期間中，毎年度37冊を目標とする。

※２　平成28年度子どもの読書活動に関するアンケート調査では，仙台市の不読率は小学生5.9%，中学生16.5%。国の第三次基本計画では，計画５年目の平成29年度の指標として，小学生3%以下，中学生12%以下として設定している。

（4）重点的な取組

計画の目的を達成するために，４つの基本的方針のもと，家庭・地域・学校・図書館という４つのフィールドにおける重点的な取組を掲げ，計画の推進を図っています。

家庭

- ◆ 乳幼児の保護者向けブックリストの活用促進
- ◆ 様々な機会を活用した家庭での読書習慣のきっかけづくり
- ◆ 家族が一緒に読書し，同じ話題を共有する「家読（うちどく）」の推進

地域

- ◆ 市民センターにおけるボランティア養成等の推進と子ども向け事業の充実
- ◆ 児童館やのびすくなど子育て支援施設における事業の推進

連携・協力

学校

- ◆ 読書習慣の確立とアクティブ・ラーニングの視点からの読書指導の充実
- ◆ 学校図書館活用を推進していくための体制の充実
- ◆ 読書指導に関する教職員の意識と能力の向上

市立図書館

- ◆ 家庭，地域，学校との協働による家庭での読書習慣のきっかけづくり
- ◆ ヤングアダルト世代への読書支援
- ◆ 子供図書室の機能の充実
- ◆ 障害のある子どもたちの読書を助ける資料の収集と貸出の充実

2　仙台市学校図書館運営モデル校事業

（1）計画における位置づけ・事業概要

第三次計画では，学校における重点的な取組として「学校図書館活用を推進していくための体制の充実」を掲げており，その具体的取組の１つとして平成 29 年度より開始したのが「学校図書館運営モデル校事業」です。

当事業では，学校図書館を利用する児童生徒を増やし，子どもの読書に対する興味関心を喚起するための取組推進を目的として，学校図書館運営に関し特色のある取組をする学校を学校図書館運営モデル校に認定し，図書購入費などの重点配分を行います。

平成 29 年度は，先進的な取組や特徴的な取組を実施する小学校５校・中学校２校をモデル校に認定し，図書購入費の重点配分を行いました。

＜平成 29 年度モデル校＞

学校種別	学校名	重点配分額 （図書購入費）
小学校 （５校）	高砂小学校	120 千円／校
	桜丘小学校	
	人来田小学校	
	将監小学校	
	住吉台小学校	
中学校 （２校）	七郷中学校	200 千円／校
	田子中学校	

（2）平成 29 年度モデル校の取組事例紹介

各モデル校において，読書に関する課題や当事業実施に当たり定めた実施目標のもと，重点配分予算を活用した図書購入による読書環境整備の他，図書館運営・利活用に関する様々な取組が行われました。

図書購入に関しては，各学年の国語の教科書で紹介されている図書や，選書会を開催し児童生徒や保護者が選んだ図書を購入した学校が多く見られます。

また図書館運営や利活用に関する取組としては，小学校では家庭での読書を啓発する取組や読み聞かせ，中学校では特に授業で図書館を活用した調べ学習など，工夫した取組を実施していただき，家読やアクティブ・ラーニングの推進にもつながっています。

高砂小学校

【児童数：450 人】
（H29．5．1 現在）

◆ 実施目標 ◆

子どもたちが幅広いジャンルの本を 37 冊以上読み，思いやりの気持ちや生命を尊重する心情を更に豊かにする。

読書の課題

図書館教育先進校（鶴岡市立朝暘第一小学校）を視察するなどして優れた取組に学び，読書活動の充実を図ってきた。

取組内容

●いじめ・自死を防止する読書活動の推進

いじめ・自死防止教育における読書活動の在り方を探求。朝会や昼の放送で，「友達」「仲間づくり」などを主題としたものを含め，いじめ・自死について考えることにつながる本の紹介を実施。また図書室にもコーナーを設けた。

●学年別「ぜひ読みベスト 50」の拡充

平成 28 年度に引き続き，読むべき本を 50 冊精選し，教室内にも「ぜひ読みベスト 50」一覧表を掲示して意識付けを図った。保護者，地域住民からも推薦図書を募った。

●図書室利用についての研究授業の公開

11 月に宮城県図書館大会にて公開研究授業を実施，読書教育の今日的あり方を探求した。

●図書館に親しむための工夫

教員が積極的に児童を図書館へ連れて行き，児童が本に触れる機会を作った。

いじめ・自死防止の本のコーナー

「ぜひ読みベスト 50」のステッカーで強調

NO	図書名(本の名前)		NO	図書名(本の名前)	
1	チームふたり	課題図書(2008)	26	バッテリー	6年生の本だな
2	耳の聞こえない子がわたります	課題図書(2008)	27	約束	6年生の本だな
3	ブルーバック	課題図書(2008)	28	精霊の守り人	6年生の本だな
4	なぜ、めい王星は惑星じゃないの？	課題図書(2008)	29	つくも神	6年生の本だな
5	すみ鬼にげた	課題図書(2010)	30	ぼくがぼくであること	6年生の本だな
6	鹿鳴館と人の千太郎	課題図書(2010)	31	アンジュール	6年生の本だな
7	リキシャ★ガール	課題図書(2010)	32	グリーン・ノウの子どもたち	6年生の本だな
8	海は生きている	課題図書(2010)	33	傷みがきつって偉万長者	6年生の本だな
9	心の森	課題図書(2012)	34	イクバルの願い	6年生の本だな
10	走れ！マスワラ	課題図書(2012)	35	モモ	6年生の本だな
11	わたしのひかり	課題図書(2012)	36	土のなかからでてきたよ	6年生の本だな
12	ピアノはともだち	課題図書(2012)	37	ならの大仏さま	6年生の本だな
13	ふたり	課題図書(2014)	38	命の教室	道徳の教書に出てくる本
14	マッチ箱日記	課題図書(2014)	39	明けない夜はないから	震災関連絵本
15	カブトムシ山に帰る	課題図書(2014)	40	ぼくらの津波でんでんこ	震災関連本
16	時をつなぐおもちゃの犬	課題図書(2014)	41	心のおくりびと	震災関連本
17	大村智ものがたり	課題図書(2016)	42	宮城県気仙沼発！ファイト新聞	震災関連本
18	ここで土になる	課題図書(2016)	43	なりたい自分になろう！人生を変えるための仕事ガイド	仕事ガイド
19	茶畑のジャワ	課題図書(2016)	44	職業ガイド234種	お仕事ガイド
20	WANDER ワンダー	課題図書(2016)	45	パティシエをすばる	お仕事読み物
21	おーいぼぼんた	6年生の本だな	46	西の魔女が死んだ	読んでみて！(by図書室)
22	隅田川	6年生の本だな	47	広島のかなた	読んでみて！(by図書室)
23	絵本 玉虫厨子の物語	6年生の本だな	48	三国志	読んでみて！(by図書室)
24	肥後の石工	6年生の本だな	49	星の王子さま	読んでみて！(by図書室)
25	夏の庭	6年生の本だな	50	てつがくのライオン	読んでみて！(by図書室)

各学年の「ぜひ読みベスト５０」一覧表

「ぜひ読みベスト 50」のコーナー

取組の結果・効果

●いじめ・自死を防止する読書活動の推進
　いじめをしない・させない・許さない態度が更に強化された。
●幅広いジャンルの本を読み，読書の楽しさや大切さを実感する児童が増加し，11 月の読書週間では貸出数が平成 28 年度の３倍となった。
●保護者・地域住民との連携が更に広がった。

取組を振り返って

読書活動は，子どもたちが言葉を学び，感性を磨き，表現力を高め，想像力を豊かなものにすることと考えている。

平成 30 年度の取組の予定として，全国の小学生の投票による「小学生がえらぶ！“こどもの本”総選挙ベスト 100」の中から，現在図書室に置いていない本を購入する予定である。また，小学生子ども新聞に紹介されている本を児童の目に留まる場所に配置することで新聞にも興味を持ってもらえることを期待する。総選挙で選ばれた本をきっかけに，貸出が増えることを願っている。

本校の教員は，図書室を定期的に利用する子どもが増えてきている実感があり，図書室が学校教育の中心にある大切なもので，学習を土台から支えていることを感じている。学校は，子どもたちに学力をつけることが大きな目的の１つであり，今後も子どもたちに豊かな読書生活と学力をつけていくことを目指して実践を進めていきたいと考えている。

◆　注目 POINT　◆

●いじめ・自死防止を図るための取組の１つとして読書を取り入れ，児童の読書意識向上と同時にそのねらいの達成にもつなげている。
●子どもの読書活動に対する保護者や地域住民の意識向上に取り組み，地域全体の読書活動推進を図ることで地域連携拡充につなげている。
●授業での図書館活用に力を入れ，児童が本に触れる機会の創出に努めている。

桜丘小学校

【児童数：470 人】
（H29．５．１現在）

◆ 実施目標 ◆

高学年児童の充実した読書活動の支援

読書の課題

学年が上がるにつれて図書利用率（貸出冊数）が低下（平成 28 年度の全学年における１人あたり平均 74.6 冊に対し，６年生の１人あたり平均は 41.7 冊）

取組内容

●高学年向け図書の購入

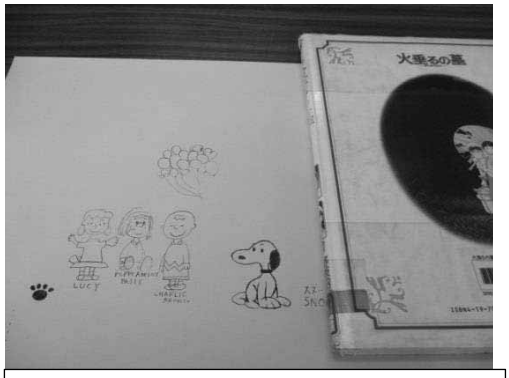
文学や歴史・自然に関する読み物を中心に全 20 種類の高学年向け図書を購入。

●高学年図書の移動文庫

高学年図書をカートに入れ移動本棚を作成し，５・６年生教室に配置。

●「図書デー」の開催

毎月 10 日を「図書デー」とし，貸出時間拡大や図書クイズ・抽選会などを実施。



第２回図書デーで配布されたブックカバー

●多読賞・読書賞の実施

全校児童の２月末までの学校図書館個人貸出冊数，学級文庫の読了数，学校指定必読書の読了数など読書量を調査し，一定の条件を満たした児童に賞を授与。

●読み聞かせの実施

毎週木曜日に地域の図書ボランティアの方々に協力いただいて読み聞かせを実施。また全 16 学級で校内全教職員による読み聞かせを実施。

教職員による読み聞かせの様子

取組の結果・効果

●学校評価重点目標「読書にふれ，心を豊かに育てよう　～学年必読書を含めた読書賞をとる児童の割合を 70%にする～」の達成

平成 29 年度の読書賞受賞率は 42%に留まった。要因としては，校内における読書賞受賞要件（35 冊以上読了且つ，学年必読書５冊以上読了）が変更されたことや，必読書の冊数準備不足が考えられる。しかし，必読書に関係なく 35 冊以上読了児童は全体の 75.6%に達することができた。

●学校図書館利用率

平成 29 年度の１人あたりの年間貸出冊数（全校児童平均）は 56.7 冊であり，前年度より 18.2%の減となった。要因としては，学級文庫や高学年図書の移動文庫の充実などが考えられる。

●読書活動により，児童の集中力や落ち着きを養うことができた。